

令和3年度（2021年度）八王子市立中学校・義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 社会(歴史)(1/1枚目)							
発行者名 調査の観点	東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	育鵬社	学び舎
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮 (2)生徒の発達段階に対する配慮しているか。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・見方・考え方を捉え、働かせるプロセスを通じ「深い学び」が実現できるよう工夫している。 ・概ね4ページに1か所以上設定された「見方・考え方」コーナーにて見方・考え方に基づき学んだことを説明させる問いを設定している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・p.6・7「歴史へのとびら」にて小学校での既習人物・文化財等一覧を記載している。 ・各単元タイトル横「学習課題」により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「基礎・基本のまとめ」「まとめの活動」にて知識・技能が定着するよう工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・p.7～9「歴史の見方・考え方と学習の進め方」にて歴史的な見方・考え方に基づく思考方法を分かりやすく説明している。 ・「歴史の技」読み解こうコーナーにて資料を活用した見方・考え方の手法を身に付けさせるよう工夫している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・小学校の教科書で登場した人物にマークを付け学習の接続を意識させるよう工夫している。 ・各単元タイトル下「学習課題」により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「学習のまとめと表現」にて知識・技能が定着するよう工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・各章末「章の学習を振り返ろう」にて時代の特色の説明活動により歴史的な見方・考え方を働かせる構成となっている。 ・各章はじめの「タイムトラベル」にて小学校での既習内容を振り返らせたり、「多面的・多角的に考えてみよう」にて高等学校等での歴史的な見方・考え方による活動につなげたりするよう構成している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・p.1「歴史をたどろう」にて小学校で学んだ人物を想起させる工夫をしている。 ・各単元タイトル右「学習課題」により、学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「章の学習を振り返ろう」にて知識・技能が定着するよう工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・全単元の「ステップアップ」コーナー及び写真やグラフ等資料に黄色い枠囲みの問いを付け、歴史的な見方・考え方を身に付けさせる工夫をしている。 ・p.56・57他「歴史を考えると」にて歴史的な見方・考え方をはたらかせ資料を読み取る場面を設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・各単元タイトル下の課題により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「まとめ」にて知識・技能が定着するよう工夫している。 ・小さなフォントによる文章増と推移・因果関係・差違等記述により歴史の流れを理解させ、用語解説により知識・技能を定着させる工夫をしている。自学に役立つ。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・p.12・13「歴史的な見方・考え方とは」にて小学校の歴史学習を振り返らせ、歴史の見方・考え方を学ばせる構成となっている。 ・全単元の「学習課題」「見方・考え方」コーナーにより知識と歴史的な見方・考え方が身に付くよう構成している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・p.6・7にて小学校で学んだ人物を想起させる工夫をしている。 ・各単元タイトル左「学習課題」により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「学習の整理と活用」にて知識・技能が定着するよう工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・p.18「歴史ワクワク調査隊・6つの心得」にて歴史の見方・考え方の方法を扱っている。 ・日本史に関する豊富な人物や資料により日本を世界との関連や時代毎の比較等から捉えるよう工夫している。 ・巻頭③④「日本の美の形」、p.19「海洋国家日本の歩み」、p.44「日本人の宗教観」、巻末③④「日本列島歴史の宝庫」にて日本の歴史・伝統に対する誇り、p.47「天皇と皇帝」、p.282「国民とともに歩む天皇」にて天皇に対する崇敬の念を示すなどの視点を扱っている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・p.8～11「歴史の流れと先人の活躍」、p.20・21他「歴史絵巻」にて小学校で学んだ人物を想起させる工夫をしている。 ・各単元タイトル右「課題」により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「学習のまとめ」にて知識・技能が定着するよう工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・各章扉ページにて絵や写真から各時代の各地の様子を想像・予想させるよう工夫している。 ・各時代の人々の具体的な生活が分かる資料や様々な立場・視点から歴史を捉えさせることにより見方・考え方を働かせるよう工夫している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・p.6・7「歴史を楽しく学ぼう」にて小学校で学んだ人物を想起させる工夫をしている。 ・各単元タイトル、写真及び課題により学習を見通せるよう工夫している。 ・各章末「学習のまとめと表現」にて知識・技能が定着するよう工夫している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・導入時、各章「探究課題」、各節「探究のステップ」を設定し、課題を探究・解決する活動を展開する構成となっている。 ・22のテーマを設定した「みんなでチャレンジ」コーナーによりグループで共通テーマについて考えを深めあう活動の課題が設定され、「主体的・対話的な学び」の機会を多くもてるよう工夫している。 ・各章末「まとめ学習」にてくらげチャート、Xチャート、ピラミッドストラクチャー、ウェビング、ステップチャート、ランキングの作業をグループにより学習させることで、論理的思考を習得させる構成となっている。 (2)構成・分量 ・本文194ページ、本編281ページ、7章構成である。本編101単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。 ・見開き2ページで1単位時間を構成している。 ・左上に本時の学習課題、右下に年表、右下にチェック・トライの項目があり、本時の展開が分かり易い。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・導入、本時・特設、まとめと表現から構成され、共に学ぶ力、深く学ぶ力を育むよう工夫している。 ・「歴史の技」読み解こう「Q」の問いにより、多様な資料を用いた時代の特色を考察する技能が身に付くよう工夫している。 ・全単元「確認」「表現」コーナーにより知識を定着させるよう工夫している。 ・各章末「学習のまとめと表現」で新聞や表の作成、資料の比較、関係図へのまとめ等の活動を通じ論理的思考力を身に付けさせる構成となっている。 ・「歴史を探ろう」のテーマを現代につなげ、生徒の興味を引き出すよう工夫している。 (2)構成・分量 ・本文194ページ、本編288ページ、7章構成である。本編100単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。 ・見開き2ページで1単位時間を構成している。 ・左上に年表、学習課題、右下に表現の項目があり、本時の展開が分かり易い。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・導入発問、本文、図版・資料を読み解く発問、まとめ・ステップアップから、歴史を学ぶ力を養うよう工夫している。 ・コラム2種(テーマ考43「未来に向けて」、同3「多面的・多角的に考えてみよう」)にて言語活動や様々な立場や選択を踏まえ考察する活動を設定し、「主体的・対話的な学び」が実現するよう工夫している。 ・全単元にて学んだことを確認・説明する問いを設け、表現力を育成する構成となっている。 ・文化史・社会史に18テーマの地域史を加え、互いの文化を尊重しあう態度を涵養するよう工夫している。 (2)構成・分量 ・本文208ページ、本編285ページ、2部6章構成である。本編92単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。 ・見開き2ページ1単位時間構成である。 ・左上に学習課題、右下に「確認しよう」説明しようの項目があり、本時の展開が分かり易い。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・導入発問、本文、図版・資料を読み解く発問、まとめ・ステップアップから、歴史を学ぶ力を養うよう工夫している。 ・p.298～305「歴史との対話を未来に活かす」にて災害・政治参加・世界平和の現代的課題を深く学び、よりよい未来の創造のため何が大切か解決策を考える手順を示し構成している。 ・主体的・対話的な学びの実現及び公民的分野の予習となるよう工夫している。 ・各編・章導入にて日本に影響を与えた世界の歴史を世界地図・イラストにより説明し、推移・相互の関連を示すことにより各時代の特色の理解が深まるよう工夫している。 (2)構成・分量 ・本文209ページ、本編297ページ、6編構成である。本編90単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。 ・資料や本文の多さから2～3ページで1単位時間を構成している。 ・左上に学習課題、右側に年表、右下に確認の項目があり、本時の展開が分かり易い。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「つかむー調べーまとめるー表現する」課題解決的な学習に教材が配列され、知識・思考・判断・表現が一体化するよう工夫している。 ・各単元はじめの中学生イラストの吹き出しにより資料に関する問いを設け、対話的な授業に導く構成となっている。 ・p.28・29他「歴史ズームイン」やp.68他「なでこ日本史」等のコラム・資料により歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる学習を設定している。 ・p.64他「歴史のターニングポイント」にて複数の資料を基に異なる立場から考えさせる工夫をしている。 (2)構成・分量 ・まとまった「現代」の記述により本文174ページ、本編289ページに収まる。2部6章構成である。本編86単位時間程度である。標準時数・発達段階に合致している。 ・見開き2ページで1単位時間を構成している。 ・左上に課題、右下にまとめの項目があり、本時の展開が分かり易い。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「対話・討論にチャレンジ」や各章末の振り返り、まとめに考えを深める課題やグループ活動が示され、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫している。 ・大きく鮮明な図版、太字をなくした文章・地図・グラフ・注釈から構成され、生徒の疑問や問いを引き出すよう構成している。 ・日本史の背景となる世界史の記述を充実させ、日本と世界の歴史・文化の相互関連を理解させる工夫をしている。 ・全編を通じ、民衆や女性、子供の視点で単元が設定され、様々な角度・立場から課題を追究するよう工夫している。 (2)構成・分量 ・本文226ページ、本編281ページ、6部10章構成である。本編113単位時間程度であり、指導計画時間上限に近い。 ・見開き2ページで1単位時間を構成している。 ・左上に導入としての問いを明示し、太字や重要語句を表記せず、内容を理解する姿勢を育てる構成となっている。 ・イラストや写真等資料が多く、見易く配置している。	
3 情報活用能力の育成に関する配慮しているか。 (1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。 (2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.14～17「身近な地域の歴史」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード・URL読み込みによりクイズ、同社の他教科・同教科他分野(地理・公民)教科書のページや動画等35項目のデジタルコンテンツが開くよう工夫している。 ・p.245・277「スキルアップ」にてインターネット、プレゼンテーション・ソフト活用を扱っている。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.10～16「身近な地域の歴史を調べよう」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード・URL読み込みにより同社の「まなびリンク」から文化財データベースや博物館等が開く。調べ学習への意欲やスキルを十分もっている生徒には役立つと考える。 ・p.10～16地域調査の手引きがインターネットを活用し学習する構成となっている。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.6～11「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード読み込みにより当教科書掲載の復習ページの解答、時代特徴を描いたイラストや年表、学習内容に関連するNHKforSchoolの数十以上の動画等のデジタルコンテンツが開く。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.8～13「身近な地域を調べよう」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード読み込みにより学習内容に関連する博物館や動画(8点、内NHKforSchoolの動画5点、音声1点)のウェブサイトが開く。学習を深めることに役立つ。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.8他コラム「スキルUp」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード読み込みにより動画3点(天地返し、戦時下の日本、戦後の東京)とスライド1点、発展的な学習のワークシート、博物館等へのリンク等が開く、関連する学習に役立つ。 ・p.102コラムにて、コンピュータを活用し地域を調査する方法を扱っている。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.13～18「地域の歴史を調べてみよう」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード・ウェブサイトは示されていない。 ・p.18でパソコンを用いて効果的に発表するの「よい」、p.290歴史新聞作成手順にて「インターネットなどを利用する」と記述し、p.10「歴史人物Q&Aカードをつくらう」にてインターネットでの情報の活用に触れている。	(1)情報活用能力を育む構成 ・p.132・133「歴史への案内」に調査・発表方法を記載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・QRコード・ウェブサイトは示されていない。 ・p.104、105洛中洛外図屏風にインターネット検索を扱っている。 ・p.210、211「歴史を体験する」にて人物調べでのインターネット活用を扱っている。
4 使用上の便宜 (1)教員にとっての使いやすさ (2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)教員にとっての使いやすさ ・AB判見開き2ページで1単位時間が構成され、授業計画を立てやすい。 ・各章に「導入の活動」「基礎・基本のまとめ」「まとめの活動」があり、導入・振り返りの指導に活用できる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・読み易く(太字7点)、写真・イラストが鮮明である(資料8点)。(一例・p.20・21人類の出現と進化) ・全単元左ページ下部に時代区分を示している。 (3)地域性 ・p.244「地域の歴史を調べよう」にて東京大空襲を扱っている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・AB判見開き2ページで1単位時間が構成され、授業計画を立てやすい。 ・各章はじめのイラスト「タイムトラベル」により生徒の学びに向かう意欲を引き出し、考え気付けさせる工夫ができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・読み易く(太字7点)、写真・イラストが鮮明である(資料9点)。(一例・p.20・21グレートジャーニー) ・全単元左ページタイトル上に時代区分を示している。 (3)地域性 ・p.182・183「身近な地域の歴史を調べよう」で町田市の自由民権資料館等、多摩地区の資料館等を扱っている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・AB判見開き2ページで1単位時間が構成され、授業計画を立てやすい。 ・各章はじめのイラスト「タイムトラベル」により生徒の学びに向かう意欲を引き出し、考え気付けさせる工夫ができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・読み易く(太字17点)、写真・イラストが鮮明である(資料6点)。(一例・p.16・17人類の誕生と進化) ・出来事や人物等を網羅的に扱い、太字を多用している。 (3)地域性 ・本市にかかわる記述はないが、「地域からのアプローチ」にて日本の諸地域から奈良・福岡等をバランス良く扱っている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・AB判見開き2～3ページで1単位時間構成のため、授業計画に工夫が必要である。 ・各編に「地図で見る世界の動き」「学習の整理と活用」があり、導入・振り返りの指導に活用できる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・読み易く(太字10点)、写真・イラストが鮮明である(資料7点)。(一例・p.18・19人類の出現) ・全単元右ページ右側に時代区分を示している。 (3)地域性 ・p.257「スキルUp戦争遺跡の見学のしかた」にて東大和市、p.141コラムにて玉川上水を扱っている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・AB判見開き2ページで1単位時間が構成され、授業計画を立てやすく、大きな資料等は授業において活用し易い。 ・各章の地図と資料により世界史的視点をもたせる工夫となる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・読み易く(太字5点)、写真・イラストが鮮明である(資料6点)。(一例・p.24・25日本列島ができたころの人々) (3)地域性 ・p.130江戸の産業のコラムにて玉川上水を扱っている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・A4判見開き2ページで1単位時間が構成され、授業計画を立てやすく、大きな資料等は授業において活用し易い。 ・各章扉の地図と資料により世界史的視点をもたせる工夫となる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・本文に太字表記がない。写真・イラストは鮮明である(資料7点)。(一例・p.12・13木から下りたサル) (3)地域性 ・p.132・133「歴史への案内」にて羽村市から小平市に流れる玉川上水を扱っている。	
5 その他	(1)SNSや情報モラルについて ・p.265コラムにスマホやSNSの登場を記載している。 ・p.15調査方法にインターネット利用時・引用時の注意を記載している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・巻頭3p.1に歴史の学びと持続可能な社会の実現に関連付け、p.271本文にSDGs採択を記載している。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.262本文に1964オリンピックを、p.242・243のコラムにオリンピック・パラリンピックと日本の発展の記載がある。	(1)SNSや情報モラルについて ・p.281本文にスマホやソーシャルメディアの広がりを記載している。 ・p.12調査方法にインターネット利用時・引用時の注意を記載している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・p.289「歴史の終わりに」に現代の課題とSDGsを関連付けたい記載がある。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.270本文に1964オリンピックを、p.283にパラリンピックの写真を、p.285のコーナーで人権尊重の実現に関連付けたいオリンピック・パラリンピックを記載している。	(1)SNSや情報モラルについて ・p.9情報の集め方にインターネット引用時の注意を記載している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・p.283注釈にてSDGs採択に触れ、p.286・287「未来に向けて」にてSDGs目標をもとにしたテーマ学習を展開している。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.270本文に1964オリ・パラを、p.282本文に東京2020オリンピック・パラリンピックを記載し、建設中の新国立競技場写真を掲載している。	(1)SNSや情報モラルについて ・p.8身近な地域調査にインターネット利用時・引用時の注意を記載している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・かかわる記述はない。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.272に写真を掲載し、p.273本文で1964オリンピックを記載している。	(1)SNSや情報モラルについて ・かかわる記述はない。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・p.294・295コラムにて、北九州市のSDGsモデル都市選出を記載している。 ・p.300の課題例にて今日的課題を歴史的に振り返ることによりSDGsを意識させる記載がある。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.270本文に1964オリ・パラを、p.280・281コラムに東京2020オリンピック・パラリンピックを記載し、p.261に建設中の新国立競技場写真を掲載している。	(1)SNSや情報モラルについて ・p.14地域調査の方法として、学習におけるインターネット活用は公的機関のウェブページを検索するよう推奨している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・かかわる記述はない。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.270本文に1964オリンピックを、p.281本文とコラムに東京2020オリンピック・パラリンピックを記載している。	(1)SNSや情報モラルについて ・p.6・7「歴史への案内」に調査方法としてインターネット活用を記載している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・p.277本文にSDGs採択を記載している。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・p.264コラムに1964オリンピックを記載し、写真も掲載している。